

課外・ボランティア活動支援センターが発足

2014年4月より、東北大学は新たに高度教養教育・学生支援機構(Institute for Excellence in Higher Education: 略称IHE)を設置しました。この機構には11の業務センターが置かれ、その一つとして「課外・ボランティア活動支援センター」があります。

同センターでは、本学学生の社会性を涵養し、主体的な問題解決能力を備えた指導的人材を育成するために、学生の自主的な課外・ボランティア活動を総合的に支援するとともに、社会貢献型の体験学習を実施していきます。

ボランティア支援においては、これまで「東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室」が担っていた業務を同センターで継承し、また体験学習の機会の提供による正課科目との連携や、国内外の他大学との交流等にも取り組んでまいります。

今後とも、センターの活動にご注目のごをよろしくお願いいたします。

URL: http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=7395



今後のスケジュール

夏休みのボランティアツアー

下記のツアーの参加者を募集中です! また最新のツアー募集情報はホームページ(<https://sites.google.com/site/voltohokuuniv/>)をご確認ください。

■ 岩手県での活動

あしながインターンシップ・陸前高田スタディツアー 8/18(月)～19(火)

- 18日9:00川内南キャンパス集合、19日19:00同所解散
- あしながインターンシップ東北プログラムに参加する世界の著名大学の学生と一緒に、陸前高田市の復興の現状を学びます。
- 費用は特に不要(昼食代など別)
- 定員:15名、募集〆切:8/8(金)

陸前高田仮設住宅調査 8/22(金)～25(月)

- 22日10:00川内南キャンパス集合、25日20:00同所解散
- 仮設住宅等を訪問し、現状と今後の課題について聞き取り調査を行います。日本語の読み書きが可能であれば、他に専門性は必要ありません。
- 費用は特に不要(昼食代など別)
- 定員:8名、募集〆切:8/11(月)

陸前高田ボランティアツアー 9/4(木)～7(日)

- 4日8:00川内南キャンパス集合、7日22:00同所解散
- 陸前高田市の仮設住宅での活動、地域のイベントに参加して、地元の方々と交流します。神戸大学・岩手大学など他大学と一緒に活動します。
- 費用2,000円(予定)、食事・入浴代は別途
- 定員:10名、募集〆切:8/25(月)

■ 福島県での活動

福島スタディツアー 9/16(火)～18(木)

- 9月16日(火)8:00東北大学川内南キャンパス集合、18日(木)19:00同所解散
- 福島第一原子力発電所事故の影響を受けた川内村、いわき市をはじめとする福島県内の地域を回り、現地の方からのお話や仮設住宅の訪問を通して福島の現状について学びます。
- 費用4,000円程度(交通費無料、宿泊費等)
- 定員:20名、募集〆切:9/8(月)

■ 宮城県での活動

石巻市雄勝町・波板足湯ボランティア 9/23(火)

- 23日(火)10:00川内南キャンパス集合、19:00同所解散
- 石巻市雄勝町波板地区を訪問し、足湯ボランティアを行います。
- 費用500円(交通費無料、お茶会費用等)、昼食代は別途
- 定員:10名、募集〆切:9/14(日)

石巻市雄勝町リサーチツアー 9/26(金)～28(日)

- 26日(金)8:00川内南キャンパス集合、28日(日)21:00同所解散
- 石巻市雄勝町の被災集落、同町の方々が入居する仮設住宅などを訪問し、現状と今後の課題について聞き取り調査を行います。日本語の読み書きが可能であれば、他に専門性は必要ありません。
- 費用3,000円程度(交通費無料、入浴・食費等)
- 定員:10名、募集〆切:9/17(水)

漁師が仕掛けるブルーツーリズム 9/27(土)～28(日)

- 27日(土)8:50仙台駅東口ロータリー集合、28日(日)18:30同所解散
- 南三陸町で漁場見学と漁業体験を通して、「ブルーツーリズム」による海産物直販と観光資源再生への挑戦について学びます。
- 費用5,000円(交通費無料、宿泊費込)
- 定員:15名、募集〆切:9/17(水)

ツアーへのお申し込み

QRコードから申込用のフォーム
(<http://goo.gl/DcMmRC>)が読み込めます。

読み込めない方は氏名、参加希望ツアー名を明記し、tour.info.tohoku@gmail.comまでメールをお送り下さい。
いずれのツアーも定員に達し次第、〆切に関わらず、募集を終了します。



東北大学高度教養教育・学生支援機構
課外・ボランティア活動支援センター



Volunteer Seminar Journal Vol.8

2014 Summer
ボランティアセミナージャーナル

P1	P2	P3	P4
●福島ボランティアツアー	●2014年度基礎ゼミ「地域復興とボランティア活動」実施ツアーの報告	●学生ボランティア団体の活動	●課外・ボランティア活動支援センターが発足 ●今後のスケジュール



福島県田村市都路地区で水路整備を終えての集合写真

福島ボランティアツアーに参加して

田中 咲也 (文学部1年)

7月5日～6日の福島ボランティアツアーは、基礎ゼミ(「地域復興とボランティア活動」)の一環として、同ゼミの福島班の1年生5名で企画したものです。

内容としては、1日目は福島県田村市の都路地区で山の整備の手伝いを、2日目は郡山市の仮設住宅で清掃活動等を行いました。都路地区は、今年の4月に避難指示区域解除が決定され住民の帰還が始まった場所です。1日目の活動では、そうした田村市で震災以前からの問題であった過疎化の進行をくい止め、住民の誇りを醸成するため、御自身の所有する山を整備して新たな観光名所を作ろうとする住民の方のお手伝いをさせていただきました。今回は水路の作成ということで、大量の石を運んでは敷き詰めるといふなかなかの重労働になりましたが、その分終わった後の達成感も大きかったと思います。

郡山市の活動では、参加者の多くが実際に仮設住宅の部屋の中に入るのは初めてということで、貴重な体験となりました。また、今回掃除の要望を頂いた方ほとんどは高齢者の一人暮らしということで、やはり高いところにあるエアコンや換気扇などの掃除が難しく、3年間一度もしたことがないという方もいらっしゃいました。掃除をした後は、どのご家庭でもお菓子や飲み物をご馳走になり、とてもありがたかったです。

皆さんもぜひ、福島などでのボランティアツアーに一度参加してみてください。

Volunteer Seminar Journal Vol.8

公式サイトへはこちらからアクセス!
<https://sites.google.com/site/voltohokuuniv/>



発行日 平成26年(2014年)7月30日

発行者 東北大学教育・学生支援部 学生支援課 (管理棟1階②番窓口)
〒980-8576 仙台市青葉区川内41 TEL 022(795)7818

©2014 Tohoku University Printed in Japan

2014年度基礎ゼミ「地域復興とボランティア活動」実施ツアーの報告

基礎ゼミ「地域復興とボランティア活動」(担当:経済学研究科准教授・西出優子先生)では、1年生が4つの班に分かれて、課外・ボランティア活動支援センターの協力を得て、それぞれの地域の復興課題を学びながら、それを他の学生に伝えるためのツアーを企画・実施しました。前ページの福島ボランティアツアーの他、岩手県陸前高田市・宮城県仙台市若林区・宮城県山元町で実施したツアーについて報告します。

Tour 1 陸前高田市ボランティアツアー [6/27~29] 赤羽 郁哉 (法学部1年)

6月27日から29日にかけて行われた陸前高田ボランティアツアーを企画しました。27日は移動日で、28日は奇跡の一本松等の震災遺構の見学、仮設住宅の会長さんのお話を聞くことがメインでした。見学では、津波の残した傷跡の深さを改めて感じ、震災の原点に帰ることができました。会長さんのお話も、直接現地向かなければ聞くことはできないもので、大変良い経験になりました。29日は和野会館で陸前高田の郷土料理である「なべやき」を現地の人に教えてもらい、一緒に作り、子供たちに振る舞いました。なべやきを教えてくれた方々は非常に親切で、楽しく料理をすることができました。現地の人と交流でき、生の声が聞けたことは価値のあることだと思います。

ボランティアに参加することは被災地を考える上でとても重要です。データや文字からは読み取れない多くのことを体験できると思います。復興や被災地への理解を深めるためにもぜひボランティアに参加してみてください。



Tour 2 仙台市若林区復興視察 [7/5] 畠山 紳悟 (工学部1年)



7月5日「仙台市若林区復興視察～若林区の復興まちづくりの今～」として企画したこのツアーには23人が参加しました。午前中は、津波被害からの復興を考える地域住民の団体「荒浜再生を願う会」の貴田喜一会長から、津波被害を受け廃校となった荒浜小学校や、慰霊碑を案内して頂きました。参加者の半数が初めての被災地訪問であるためか、現在でも未だ津波の爪痕がありありと残る様子に驚きを隠せない参加者も多くいました。昼食には、茶房「希望」で若林区の野菜をふんだんに使ったうどんを頂きました。荒浜の復興に携わる作業員やボランティア、慰霊碑に赴いた地域住民に昼食を提供するために震災後「希望」をオープンし、これらの人々を陰ながら支えるため、採算を度外視して昼食と休憩スペースを提供する店主の関口さんの姿に参加者は皆、心を打たれました。

その後、若林市民センターの職員の方々や、東通仮設住宅の安達董会長からご講演頂き、ツアー後の感想共有の時間には、復興のためには行政と市民が意思疎通を円滑にすることが必要だとする参加者が多く、復興について深く考える良い契機となりました。

Tour 3 山元町スタディツアー [6/29] 川名 萌枝子 (工学部1年)

私たちは、山元町の現状や課題、また同時に魅力を知ってもらい、興味や理解を深めることで、今後山元町に何が 필요한のか考えてもらいたいという思いで、山元町スタディツアーを企画、実施しました。

午前は、震災前後の山元町の写真が展示・保管されている「みんなの写真館」、駅舎が全壊した旧坂元駅、津波で全半壊しながらも、避難していた児童・地域住民の方々が全員無事だった旧中浜小学校を「山元語り部の会」の方にご案内いただき、その後公民館で、住民の方々から震災当時の経緯、山元町の現状などのお話をうかがいました。

午後は、山元町のいちご栽培の活性化に取り組んでいる「山元いちご農園」で、設立の経緯や、いちご農家の現状について若佐社長にお話していただきながら併設されているBerryVeryLaboでいちごを使った料理やスイーツを堪能しました。

ただ行くだけでは表面上の理解しかできないと思いますが、実際に地元の方々にお話をうかがうことで山元町の様々な課題について考えることができました。ゼミは終了しましたが、これからも様々な形で被災地の復興支援に積極的に関わっていききたいと思います。



学生ボランティア団体の活動

東北大学では多くの学生ボランティア団体が活動しています。今回はその内4つの団体の活動を紹介します。



As One 上田 格 (工学部3年)

私たちAs Oneは「東北震災復興支援」「海外住居建築支援」「メンバーの居場所づくり」の3つをコンセプトとして活動しています。また国際NGOのHabitat for Humanity Japanの学生支部という一面もあり、全国26の大学と協力して活動しています。

東北支援に関しては3年経った今、必要とされている事であり学生にできることを一人一人が考えながら活動しています。海外ボランティアに関しては春と夏の長期休みにアジア圏を中心に支援チームを派遣し、貧困層の方々に対する住居建築支援をしています。

最近の活動として、5月に7つの大学を松島に招いて合宿をしたり、6月には青山学院大学の学生と合同でスタディツアーをしたりしました。これらの活動を通して共に考え、今後の東北支援に関して意見を交換し合いました。

Facebook: <https://m.facebook.com/profile.php?id=471979909598292>
Twitter: @tohoku_asone Email: tohoku.asone2013@gmail.com



学生による地域支援活動団体 みまもり隊 平野 智也 (工学部3年)

私たちみまもり隊は、2011年6月に結成し、魅力たっぷりの街、東松島を中心に農業を通じた復興支援をしている学生団体です。

私たちは、東松島に多くの人を呼び込み、東松島を活気あふれる街にしたいと考えています。そのために他団体と連携して東松島のブランド地野菜を創るプロジェクトを行っています。今年の5月には、東北大学ボランティア支援室さんと協力して、地野菜候補となる野菜の苗の「植え付けイベント」を行い、総勢22名で楽しく、植え付け体験やバーベキューを行いました。来る8月9日には収穫祭を行う予定です。みんなで楽しく地野菜を創り、それを様々な場所で売り、同時に情報発信していくことで東松島の魅力を内外にアピールしていきます。

代表: 中井 崇人 (理学部4年) Email: mimamori.311@gmail.com
TEL: 080-6702-3430 (代表) HP: <http://mimamori311.wix.com/mimamori>
Facebook: みまもり隊 Twitter: mimamori_tai FC2ブログ: <http://shienmimamori.blog.fc2.com/>



M Leaders 小林 紘樹 (工学部3年)

私たちMLeadersは、松島を拠点にし、「地域コミュニティを豊かにすること」をミッションとして活動する団体です。若手の旗手として、デザイン性豊かに町の革新を進めています。今までの活動と致しましては、松島地域活性化プランコンテスト(外部の若者を呼び込んだ合宿形式のプランコンテスト)や、どんぐりはうすプロジェクト(地域小学生を対象にしたコミュニティ活性化活動)を行ってきました。また、6月8日に、東北大学ボランティア支援室と共に松島の魅力を再発掘し、これからのまちづくりや観光を考える、マツシマネオビクニックを開催致しました。世界から松島へ、松島から世界へ、今、東北は変化を迎えようとしています。その中で私たちは町づくりへの挑戦を続けます。

Email: mleaders10@gmail.com <http://mleaders.wix.com/index>



キッズドア@東北 佐々木 祥人 (経済学部3年)

キッズドアは、学習支援、教育支援を行っています。キッズドアとしては被災地の中学校、小学校への支援も行っていますが、私たちキッズドア@東北チームは仙台駅近くの施設を借りて、中学3年生の受験対策講座【タダゼミ】と高校生生活応援ゼミ【ガチゼミ】を無償で行っています。

春夏は高校生の【ガチゼミ】中心に活動していました。受験生の頃でさえも勉強に集中できなかった生徒が、数学で満点とったり、作文コンクールで校内1位になっていたりと。そんな成長が見られた春夏でした。

さて、夏期講習から、中学生講座【タダゼミ】の方も本格的に始まります!受験生ということで、こちらも一層気合を入れてがんばっていきます!

Email: yssy444@gmail.com (佐々木) <http://kidsdoor-fukko.net/>